



もっと「知りたい」「知らせたい」… みんなで

ひるがのーと..

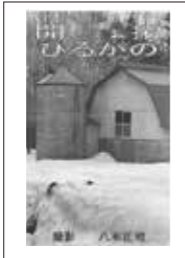
Vol.14

ご近所さんの近況や情報を紹介・発信するプチコーナー

Mamekana

八木正司写真展 「開拓 ひるがの」

8月初め頃より 2部に分けて展示。
たかすファーマーズギャラリーにて開催！
開拓時代のひるがのを知り、昭和から見つめ続け、現在のひるがのまで、生きる人々と風景を切り取り、雄弁に語りかける写真の数々。
ひとりひとり話を聞きながら写真に収めた人物写真は心が映り込んでいるようです。
みなさんぜひ足を運んでみてください。



B5判 / 1300円

夏休み朝の散策会

毎年恒例になりました散策会。
今年も朝 8:30 から 9:30 まで、中田信也さん
他の楽しいトーク?を交えて開催しています。
きっと意外な発見がありますよ。
お盆過ぎの8月19日まで開催予定。
観光協会のフェイスブックもチェックしてね!



参加料 大人300円 小学生200円

詳しくは、ひるがの観光協会の窓口またはHPにて

第6回ひるがのウォーク

こちら恒例のウォーキング大会。
9月27日に開催されます。
昨年は400名を超える参加がありました。ひるがのの魅力がたっぷり詰まったウォーキングコースに特典もいっぱい！ぜひ知り合いの方にもぜひ参加をおすすめ下さい。



- 9時コキアパーク受付
- 市内参加者としてすべての小中学生 500円
- ひるがの内に宿泊しての参加者 500円
- その他参加者 大人1500円

球技大会 今年はキックベースボール!!

6月は毎年恒例の球技大会が開催されました。
今年の種目はバレーボールではなく、十数年ぶりのキックベースボール。
バレーとは違う顔ぶれの参加者が活躍したりして、新鮮な楽しさで盛り上がりました。

1位 ひばり組

イベント情報やちょっと報告したいこと告知など、ひるがののこと何でもOK。情報をお寄せ下さい。発刊に間に合う記事を掲載いたします。

「ひるがのーと」ご協力 ありがとうございます

お陰様で、たくさんの方から寄付や賛助を頂戴いたしました。心より御礼申し上げます。
なお、郡上市からの補助金による運営は昨年度までで終了し、今年度からは補助金なしの運営となります。引き続きみなさまの篤いご支援をお願い申し上げます。

ひるがのーと 協力金

ありがとう
ございました

中田 さん
伊藤洋介さん
伊林 さん
福手ゆかりさん
倉沢 さん
米田 誠さん 他

■ ひるがのーとの会 ■

代表 / 清水 聡 0575-73-2101

■ 制 作 ■

ぱっぱ・るいーず (中屋園実 森祐子)

■ 協力 写真・文 ■

舟橋哲也 中田信也

ひるがのーとへのご意見・ご感想もお待ちしております。
どうぞお気軽にご連絡下さい。

ひるがの簡易郵便局の観光案内所
(湿原植物園窓口) 中田まで

ひるがのーとの会

●協力金一口 / 500円より

- ご協力いただける方はお手数ですが、
- フレッシュフーズひるがの 田中多恵さん
- 観光協会・湿原植物園窓口 中田さん
- どちらかへお願いいたします。

編集後記

たいへんご無沙汰しています。みなさん、お元気ですか？
前回の発行から、かれこれ一年以上も経ってしまいました。その間、「楽しみにしてるよ」「次はいつ出るの？」と声をかけてくださる方もいて、早く出さなきゃとは思いつつ、やっと今回の号を完成させることができました。

今回のテーマは「木」の上で遊ぶこと。私も、子どもの頃は木に登ったりして遊びました。でも今回の体験では、その頃の遊び方とは全然違って驚きました。ひるがのの木の上を見上げることはとても簡単です。でも、普通、10メートルもある木の上から下を見ることはないですね。今回の取材・体験を通して、そんな当たり前前のごとくに妙に納得してしまいました。

木の上は、いつでも私たちの頭の上にあるのに、日常とはとてもかけ離れていました。そこはとても穏やかで優しく。10メートル弱登るだけで、こんなにも目線が違ふんだということが新鮮でした。
まだまだ自分が知らないことが、実はすぐそこにあるのかな、とも思いました。みなさんもたまには新しい冒険をしてみませんか？新しい発見の扉は、すぐそこにあるのかもしれないよ。(そ)
危険な遊びはどんどん出来なくなる昨今。安全ならば高い木の上も登れます。子供たちがアニメで見る景色を自分の目で見たい。そう思う体験でした。視点が違えば、目に映る世界は広がり変わっていきます。(ゆ)

ひるがのーと..

ひるがのーとは、皆さんの補助金と観光協会からの支援を受けて作成しています。

編集・作成
ひるがのーとの会

発行日/2015.7.30



木の上へ、いらっしやい。

最近、いつ、木に登りましたか？

そんなこと聞かれても、すぐ答えられる大人は、そう多くいませんよね。
ところが、ここ数年、どうやら木の上が熱いらしいのです。
ほんとかいな。そう思ったあなた。あなだれなさいよ。
子どもの頃に登った木の上とは、ちょっと事情が変わって来ました。
楽しいアトラクションが頭の上に広がってます。
久しぶりに稼動したひるがのーとが、
いつものように体を張ってご紹介しましょう。



ひるがの癒し系木登り。 ツリークライミング in ひるがの高原コキアパーク

梅雨の晴れ間、真っ青すぎる空の下。この夏、新しく登場するというウサのツリークライミングを体験しに、「ひるがの高原スキー場」へ。こちらは夏にはコキアパークとして営業していて、ジップラインやディスクゴルフにストライダーパークなど、わくわくするアクティビティがいっぱいです。そんな中、さらに新登場するのが「ツリークライミング」。名前の通り木登りですが、木によじ登るのとはワケが違うようで、ヘルメットをかぶり、薄い座布団みたいなパッドのついた専用の装備を身に付けて、枝ぶりのりっぱな大木めざして、まずは山頂へと移動です。



誰でもロープ1本で 大木をするするすと。

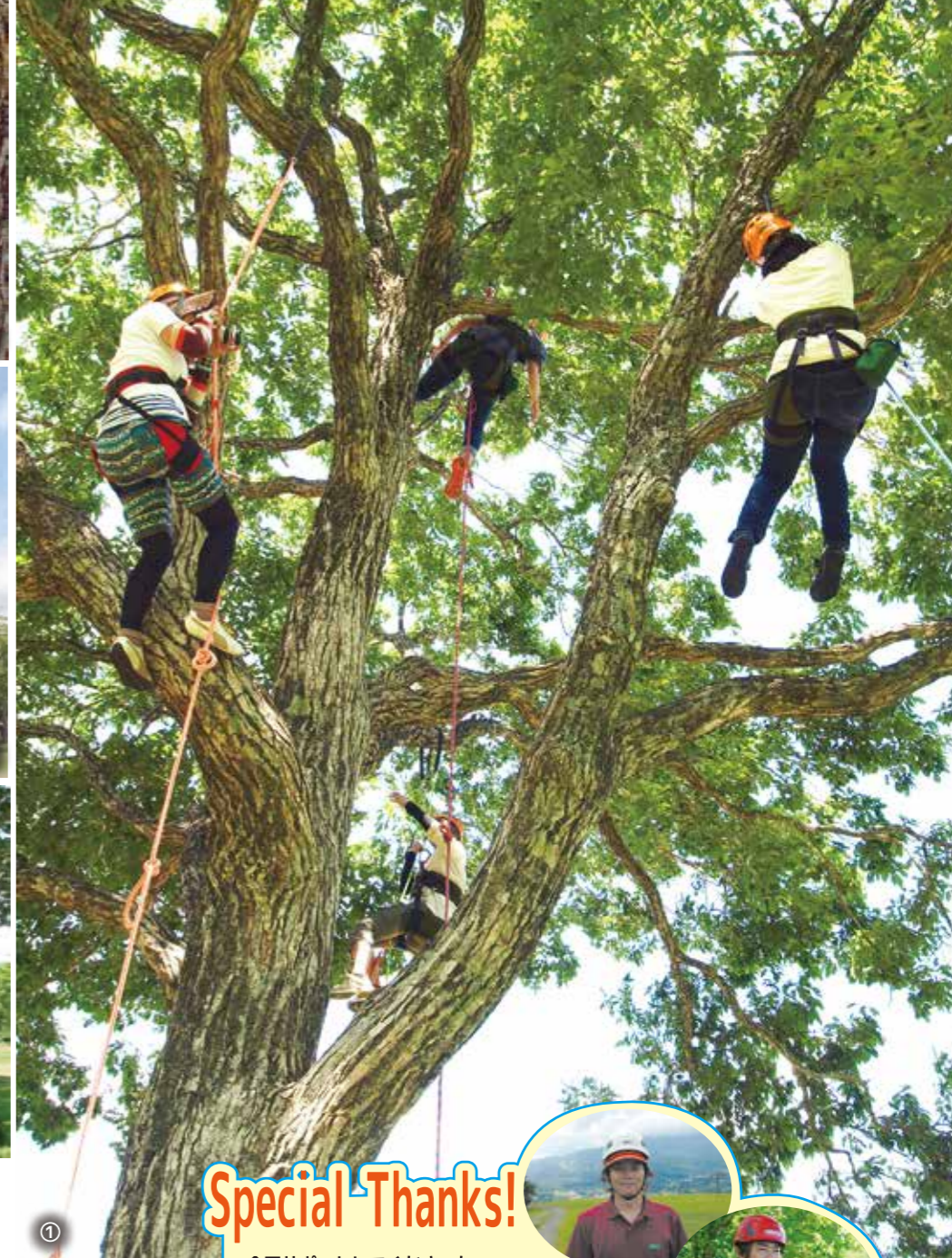
この時期、ゆさゆさと葉を茂らせて森は気分上々の様子。何メートル？なかなかの大木にロープが5〜6本かかっています。えー、あれに登るの？あれで？ロープは一人1本。登れるのか？でも、それが不思議。登り方、つまりロープの使い方を教わってやってみると…はいはい。登れますねえ。足にひっつけたロープを下に蹴るように伸ばして、目の前で緩んだお団子みたいな結び目のロープを手で上へスライドさせると、するするっと少し自分の体が地面を離れます。動きはシャクトリムシが縦に這う感じ？これを数回繰り返すと、人の肩くらいの高さまで浮かんでいます。ほお。登れるじゃん。そこからは自然と夢中にするするを繰り返して、気が付くと自分の足元には小さくなった人々が下の方で手を振っています。なんか…。たあのしいっ！

人にも自然にも優しい。 登られると、木も元気になる？！

こんな高いところにいるのに、不思議と怖さはありません。木の上でブランコのようにゆらゆらしたり、一緒に登った仲間と話したり、すっかり子どもにかえって冒険気分。鳥かな？虫かな？上からのこの見え方って誰の視線なんだろう。地上で見るより空はさらに高く大きく、人は親指くらいに小さい。自然ってやっぱりでかいなあ、なんて当たり前のことを実感したりして。日常に追われて過ごしている人には、この癒し効果もオススメです。ところで、そんな丈夫なロープなんか掛けて、木をいじめるんじゃないの？って、ちょっと気になりますよね。ところが逆に、木が元気になるんだそうです。ロープをかけるために丈夫な枝を残して細かい枝を剪定したり、足場の下草を刈ったりして、手入れすることで木のためにもなっている。そう聞けば納得です。コツさえ掴めば誰でも簡単に登れて、力もいりません。小学生の低学年や100キロ越えの大柄の人、年配のご夫婦など、今まで登れなくてリタイアした人はいないそうです。今回体験した40代の女子2人も難なく登れました。ただ、日頃の運動不足はごまかせないようで、次の日はお約束の筋肉痛でした（汗）



①大木にロープを掛けて、一度に5〜6人登れます。
②覚える動作は少なく簡単だから、余裕の笑顔。
③下からインストラクターさんが指示してくれます。
④2本の木の間にロープを渡してダイナミックなブランコ。



Special Thanks!

今回サポートしてくださった
ジップラインアドベンチャースタッフの後藤さん↑
と、ツリークライミングスタッフの中尾さん→



20代の女子2人、ちょっと古い女子2人。 みんな一緒に楽しめました。



⑤上から見ると人間がこんなに小さく見える
⑥登り終えて、妙にハイテンションな私たち。

ツリークライミング

3800円 → 3000円 (税込)
対象：小学生以上 オープン年特別料金
入園料 + リフト代込
(装備費 + インストラクター代 + 保険料含)

コキアパークには、他にもこんなに楽しいことが。



花の駅
ひるがの高原
コキアパーク
ひるがの高原スキー場

Tel.0575-73-2311

ひるがのスリル系木登り。

ウッドアドベンチャー

in DGヴァカンス村
ウッドアドベンチャー都上



地上8m…。**“怖い”**と**“楽しい”**が絶妙に合体した**“コワタノシイ”**森遊び。

絶対に落ちない命綱をつけて出発
専用のハーネスを装着後、スタッフの方から時間をかけて説明を聞きます。絶対に落ちないようにしていること。そして、ハーネスとワイヤーを繋ぐ器具の使い方。胸の高さの練習用のロープにフックを掛けたりはざしたりしてみます。うん。大丈夫そう。ではいってみましょー。



怖さの向こう側に何が見える？
最初のネットを通り抜けると、そこは木の上。こうなったら自分の足でゴール目指して進んでいくしかない、ある意味サバイバルです。丸太の一本橋を渡ると、次は立てた形の細い丸太を縦に並べてロープでつないだ不安定な足場を恐る恐る進んでいきます。ひえ〜、ゆれるう！この日は風が強くて、ロープだけでなく木もゆれています。絶対に落ちないとわかっていても、足元が不安定だと、落ちそうな恐怖で体がガチガチに緊張します。だって、ほんとに高いんです。眺めを楽しんでる余裕なんてありません。自分を落ち着かせるために、とりあえず深呼吸してみます。そんな大人を鼻で笑うように、中学生男子は楽しげにひょいひょいと駆け抜けていきます。怖いって感覚も人それぞれようです。初めて挑戦した小4の女の子は、途中でリタイアしそうになりましたが、なんとか最後までがんばりました。怖くても勇気を出して、とにかく前に進んで行けば、言いようのないやりきった感が味わえる。そんな人生の縮図的な味わい方もできたり…しないか。えへ。でも、ちょっと自分を誉めてやりたくなるのはほんとです。「怖いのによくがんばったね。」って。



あんなに怖かったのに、またやってみたいかも。
混み合っていない場合は2周まで挑戦していいそうです。この日が3回目という子どもたちは、ゴールするやいなや2周目に。まだ途中で苦戦している大人や初挑戦の友達を励ましたり、助けたり、追い抜いたりして楽しんでいました。ゴールしてみてもう思うのは、「もう一回行ったら、もう少しうまくいけるかも。」ってこと。すごい怖い思いをしたはずなのに、なんとなくまた挑戦したくなっているのが不思議。まさに“コワタノシイ”体験です。



郡上高原ホテルにオープンして2シーズン目を迎えるウッドアドベンチャーは、「怖いけど楽しい」と評判のアトラクション。こちらは、地上8メートルの高さで、ロープや木の板をつたって木から木へと進んでいくアクティブアドベンチャーで、自分の勇気を試すのにもってこい。今回は、小学生や中学生、20代の女子に40代の保護者まで、幅広い年齢層の体験隊が出発しました。

ウッドアドベンチャー Tel.0575-73-2206
体験料 大人 2500円 / 中学生 2000円 / 小学生 1500円

対象：小学3年生以上

その他のオススメ

ひるがの楽しもう！アトラクション

詳しい情報は、ホームページや観光フリーペーパーをみてね！または観光案内所でどうぞ。

木曾馬乗馬
気性の優しい木曾馬に乗って柵の外へ。いつもとは違う視点で高原を散策できます。

シャワークライミング
プールでは味わえない、森の中の天然スライダー。水の冷たさも自然ならではの。

マス釣り
マスを釣ったら、その場でいただく。吊るだけではない心もおなかも、ほっこり気分。

ウォーキング
夏でも涼しい森の中や、空の広い湿原、小鳥のさえずりを楽しみながら歩きます。

ひるがのママさんたちの子育て事情

子育てサークルトトロの会

●顔を合わせる回数が増えて、みんなが仲良くなりました。

ひるがの・西河地区の子育てサークル「トトロの会」は、0〜3歳までの保育園入園前の乳幼児と、そのお母さんたちのコミュニケーションの場。毎月2回、第1・3木曜日にひるがの老人いこいの家で定例会を開いています。以前は、月に1回の開催でしたが、その日に予定が入ったり、子どもが体調を崩したりして一度欠席すると、次の会まで2〜3ヶ月の間が空いてしまうことがあり、いつまで経っても「はじめまして」な感じが抜けないこともありました。親同士も子ども同士も、もっと仲良くなれるようにという思いから、去年、定例会を月2回に増やしたところ、みんな顔を含ませる頻度も増え、以前よりさらに仲のいいグループになったそうです。

おじゃましたこの日も、8組の親子がわいわい和やかに交流を深めていました。中には「こどもはもう保育園に行ってるけど。今日はパンを食へに来た。」というママさんも。2回のうち1回はひるがののパン屋はくばくさんに移動販売をお願いして、みんなでお昼を頼張りながら、おしゃべりするんだとか。子ども抜きで、ただおしゃべりしてくるだけでも楽しい会なんて、いい雰囲気です。

●夫婦で県外出身のファミリーが、なんと3組も！

現在、トトロの会には13組の親子がいます。なんと多くのイメージですが、ひるがのへお嫁にきたお母さんの中でも、大和や白鳥の人はけっこう多いのかと思っていました。それが今年度はそうでもないように、ひるがのの地元で結婚した人が1人。八幡と白鳥出身の人がそれぞれ1人ずつ。その他はみなさん郡上市外の出身だそうです。話を聞いて驚いたのは、夫婦揃って県外出身という人が3組もいること。そのうち2組は高鷲のスキー場で働いていて、「主人と出会い、ひるがのが気に入って移り住んできた、というひとたち。もう1組は今回一番驚かせてくれたファミリーで、ひるがのに旅行に来て、ここが気に入って、その時の宿泊先の人に頼んで住める物件を探してもらい、家族で移り住んでいる、という人たちです。ご主人は独身時代からスキーやスノーボードでスキー場には来たことがあったそうですが、家族旅行から実際の引越しまで、半年あまりというすごいスピード。ひるがの、よっぽど気に入ってもらえたようです。

●ひるがのでのリアルな子育ては？

ひるがのって、子育てする環境としてはどうでしょう。よそから来た人が多いだけに客観的な感想が聞けたのでまとめました。もちろん、いいことも困ったこともありますが、まず「子育てしやすい」と思うポイントです。

★豊かな自然 野生の動物も顔を出すほどのあり余る自然環境は大きなポイント。季節ごとに変わる景色や匂いも好きだということも見も。こどもたちも心の豊かな人に育ちそうです。

★車が少ない 市街地に比べると交通量が少ないので、子どもがのびのび遊べるという意見もありました。

★レジャー施設の地元優待 公園がないかわりに、スキー場や牧歌の里など、施設の地元優待が利用できて親子・家族で楽しめるのも好評です。

この他、子育て支援のサポートママ制度がとても助かっているなどという話も出ていました。みなさん、それぞれに地域に溶け込んで充実した毎日を送っている様子。

逆に困ることは、

★買い物不便 ★病院が遠い
 ★イベントや習い事などが少なく、選択肢が狭い

★将来的には進学先の選択にも限界がありそうなど。

若いママさんたちは、子育ての中でいろいろ不安を抱えているようですが、トトロの会に来てみんなでしゃべりしながら情報交換してしましました。先輩ママさんたちや地域のみなさんとたくさん交流できて、気軽に相談できる人や場所が増えたら、もっともっとひるがのの子育てが充実するかもしれません。みなさんご協力をお願いします。



小さな森のドラマー「コゲラ」

ばーど・うおっち

File No.11

コゲラ

キツツキ目
 キツツキ科
 全長約15cm

昆虫などを見つけて食べます。どの写真も何かを見つめる熱い視線を感じますね。

鋭く、かぎの様に曲がった爪。木の上をびよんびよん自由自在に移動できるのはこの爪だからです。

キツツキ科の鳥の尾羽はとても硬く頑丈です。その尾羽を幹にくっつけて3点で体を支えて安定させます。3本目の足みたいですね。
 ※他の鳥は尾羽が痛むのでやりません。

日本一小さなキツツキ。

ひるがのでは四季を通じてよく観ることができます。

シジュウカラやコガラなどと集団で移動していることが多いですが、カラ類と違って餌台にくることはありません。単独で木を縦横こまかく移動しながら、表皮をつついて小さい穴を開け虫を捕食します。

全長15センチと小さく地味な色合いなので、目立ちませんが、泣き声は「ギイー・ギイー」、ドラミングでは「ツウルルー・ツウルルル」と存在感があるので、観察するのが楽な小鳥です。

【文/写真：舟橋哲也】

